

発言No. 17

受付No. 18

令和8年2月13日

10時37分 受付

## 一般質問発言通告書

議席番号 13 番

氏名 柳楽 真智子

答弁を求める者

(○をつける)

市長  教育長  監査委員  選挙管理委員会委員長

農業委員会会長  固定資産評価審査委員会委員長  公平委員会委員長

### 発言項目及び要旨

#### 1. 令和8年度施政方針について

##### (1) プレミアム付はまだ応援チケットについて

① プレミアム付はまだ応援チケットを発行するとのことである。今回は7,000円分を5,000円で購入できるようだが、その5,000円を出して購入することが難しい方もいるとの声を毎回聞いており、これまで何度となく販売ではなく配布にしてほしいと要望してきた。今回も販売にされた理由を伺う。

② 益田市では全世帯に15,000円分を配布されると聞いている。浜田市でも可能と考えるが、販売と配布ではどのくらい予算の違いがあるのか伺う。

##### (2) 市産材の利用拡大について

① 浜田市では「市産材等住宅普及促進事業補助金」や「市産材等住宅建築奨励事業補助金」により、市産材の利用促進に取り組んでいるが、利用状況を伺う。

② 島根県も「県産材利用促進事業」に取り組まれており、令和8年度予算では非住宅建築物の増改築を補助対象に追加し、増改築の補助額を新築と同額に引き上げている。また、新規事業として非住宅建築物の内装・外装や備品を導入するために要する経費の補助に取り組まれる。このような県補助の活用で市産材の利用促進に繋がると考えるが、所見を伺う。

##### (3) 観光戦略について

① 市長は食を目的に旅先を決める人の割合が高いという調査結果があると示されている。美又温泉の外湯施設内にはレストランは無く、施設外の一部区画に事業者が建物を建てて食の提供を行う予定となっている。現時点で手を挙げている事業者があるのか伺う。

② 現在の美又温泉国民保養センターは令和8年3月末で閉館される。4月から新施設開館までの誘客や受け入れをどのように行うのか伺う。

③ 旅行会社と連携してツアー商品の造成から情報発信、販売促進までを一体的に展開する体制を整えるとのことである。県予算の「萩・石見空港の機能強化利用促進」では、募集型旅行商品造成や県産品の販路拡大に向け、首都圏のバイヤーや飲食店を対象とする石見地域の視察ツアーを開催して後押しされるようである。これらの県事業とどのように連携していくのか伺う。

#### (4) 人材育成・子育て支援について

- ①こどもの権利条例の検討組織立ち上げに向け、市内子育て関係団体や専門家との協議が行われている。すべてのこどもの権利が守られるものになることを期待している。こどもが抱える心の問題や発達障がい等に対応するために、県は「発達障がい者支援体制整備事業」を行っている。本人や家族への支援や市町村を中心とした、地域支援マネージャーによる専門的な指導・助言などの体制整備に対する支援があるが、浜田市での取組状況を伺う。
- ②県では「こどもの心の診療ネットワーク事業」にも取り組んでいる。こどもの心の問題や発達障がい等に対応するため、拠点病院・協力病院を中核として各圏域の関係機関の連携体制を構築する事業とのことだが、浜田市の連携体制を伺う。
- ③産後のお母さんの心と身体のサポートを行う産後ケア事業の拡充を行うとのことである。12月定例会議で卒乳や断乳後の乳房ケアについて要望した件について、市長はすぐに関係機関にヒアリングを行われ、現状の確認をして頂いたとのことである。心強く感じたところである。公明クラブの予算要望の際に少し話をした、市内で里帰り出産される場合や浜田市民が市外で里帰り出産される場合などには、それぞれの自治体を実施している支援を受けられないことがある。どこで出産しても支援が受けられる体制が必要と考えるが、ご所見を伺う。
- ④島根県が「お産安心ネットワーク事業」の拡充で、妊産婦の移動に係る交通費や宿泊費の一部を支援する。また、補助対象に産婦健診、産後ケア、乳幼児健診、不妊治療を追加された。浜田で受けられない医療を受けるために県東部や県外へ行かなくてはならないことがあり、ありがたい事業と感じるが浜田市で取り組む考えがあるか伺う。

#### (5) 農業支援について

- ①地球温暖化による天候不順で必要な水の確保ができないことによる農業被害を未然に防ぐため、県は新規事業として仮設ポンプ設置・運転、散水車等による農業用水の運搬・補給等の取組を支援する。県1/2、市町村及び地元1/2の事業となっているが、浜田市での活用について所見を伺う。

### 2. 教育方針について

#### (1) 国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会について

- ①2030年の第84回国民スポーツ大会・第29回全国障害者スポーツ大会の開催に向けて、会場整備計画に沿った環境整備に取り組むとされている。島根県は競技者の安全性、公正性を重視した会場整備を念頭に進める方針とのことであるが、浜田市として昨年行われた全国高校総体の経験も踏まえ、競技者に配慮した整備の考えを伺う。
- ②市町村に対する競技施設整備補助の額は、1施設当たり上限額1億円と聞いた。実際の整備費はこの額で賄えるのか伺う。

#### (2) 学校給食費について

学校給食費の無償化が進んでいる。島根県においても公立小学校を対象に「学校給食費の抜本的な負担軽減事業」として、国1/2、県1/2の負担割合で児童1人当たり、月額5,200円を基準額として補助することが示されている。ただ、国の予算が通らなければ実現しないとのことである。国・県補助が実現した場合に学校給食費を無償化するためには、浜田市としてどの程度の負担が生じるのか伺う。

## 一般質問発言通告書

議席番号 22 番

氏名 川神 裕司

答弁を求める者

 市長 教育長 監査委員  選挙管理委員会委員長

(○をつける)

 農業委員会会長 固定資産評価審査委員会委員長 公平委員会委員長

## 発言項目及び要旨

## 1. 地域活性化を推進するための戦略について

## (1) 移住・定住政策に対する総合的戦略について

- ① 現在まで浜田市が行ってきた移住・定住政策の検証に関して伺う。
- ② 空き家対策として全国自治体で「空き家バンク」制度の運用が強化されている。この制度は移住・定住者受入数増加の有効施策として捉えられている。当市として定住化の推進のために「空き家」をいかに活用していくか具体的な方向性を伺う。
- ③ 全国で移住・定住化が進んでいる自治体の戦略としては、「就業支援」や「子育て支援」「関係人口推進」等に特化した施策が多いと感じている。当市は以前「シングルペアレント就労人材育成事業」等特色ある施策を展開してきたが、今後移住・定住化推進の重点分野に関して伺う。

## (2) 今後の地域経済再生化施策について

- ① 人口減少に伴う経済の縮小を少しでも改善させるために、未来を見据えた企業誘致も大きな選択肢と考える。現在の企業誘致に対する優遇制度に関して伺う。
- ② 今後、体制整備を行い、積極的な企業誘致に取り組む姿勢が重要だが方向性を伺う。
- ③ 当市は一次産業をしっかり経済基盤に据えて経済再生を進めているが、それを支える6次産業の推進が重要である。そのためには以前より提言している山陰自動車道、浜田港湾、浜田広島横断道、物流団地の特性を活かした物流都市構想を推進すべきと考えるが所見を伺う。
- ④ 国全体でAI・デジタル化が進展し、データセンターの需要が拡大する。最近、地方分散型データセンター立地が議論されているが、物流拠点構想と同時に、「デジタルインフラ拠点」という新しい都市の「顔」を目指すことに挑戦したらどうか。市長の所見を伺う。

## 2. 浜田市における財産である石見神楽振興戦略について

### (1) DX を活用した石見神楽振興について

① 世界が認める地域の宝「石見神楽」に触れるために外国人も含め多くの観光客が来浜している。今後も石見神楽の魅力発信の手段として、近隣市が大きな成果を出している、メタバースを使用した石見神楽体験事業や教育方針にも触れているデジタルを活用した資料保存等、DX を活用した石見神楽振興に対して積極的に展開する必要があると考えるが所見を伺う。

### (2) 「石見神楽」の地域団体商標、意匠等の取得について

① 「石見神楽を創り出したまち」として、現在石見神楽関連産業に関して模倣品が出てくることが危惧されている。大切な石見神楽・神楽産業の特性や権利を守るための「団体商標」やブランド保護の検討・登録状況はどうか伺う。

### (3) 石見神楽保存・伝承拠点の検討に関する今後の取組について

① 石見神楽保存・伝承拠点の必要性に関しては、今後提示される「石見神楽保存・伝承拠点基本構想検討委員会」の「基本構想案」を尊重したいとの発言が昨年 12 月定例会議で三浦市長から発言された。ただし、市民からの意見を聞きながら進めるとのことだが、今後の具体的な検討スケジュールに関して伺う。

② 市民からの意見を聴取するためどのような方法をとるのがベストと考えるのか。市民フォーラムというオープンな形で意見交換が有効と考えるが、市長の所見を伺う。

③ 令和 7 年国勢調査により人口 5 万人未満となり類似団体区分が変更となる見込みである。公共施設再配置計画の実行が厳しく求められる中で、浜田郷土資料館との複合化を基本としているが、検討委員会では、拠点施設を整備するなら単独整備の意見も出ている。所見を伺う。

## 3. 安心して住み続けるための医療課題解決について

### (1) 救急救命体制整備へのアプローチについて

① 日本の心肺停止から社会復帰する割合は、わずか 8.7%と言われる。いかに医療機関が完備されていても初期対応が上手くいかないと「命」は守れない。地域の人、行政、企業が手を結び「まち」全体を救急チームと捉える「Heat Safe City」構想を基に、AED の整備推進とともに、救命技能認定証取得率日本一を目標にするつもりはないか見解を伺う。

② 今回施政方針で「まちかど救急ステーション」の整備充実に対して推進すると述べている。しかしその場所が非常時には早急に認識できなくてはならない。先進自治体では、スマホで現在位置から最も近い AED 設置場所までの最短ルートをマップに表示するというアプリを使用している。当市の AED マップの機能について伺う。

### (2) 中山間地域医療等をカバーする医療 DX について

① 中山間地では高齢化に伴う移動手段が大きな課題であり、以前委員会においても通院の不便さの解消のためドクターカー導入の有効性の検証を提言した。併せて「医療マース」実証実験や、国保診療所におけるオンライン診療に伴うインタラクティブシステム導入等の医療 DX の具体的活用に対する提言も行ったが、市長の所見を伺う。

(3) 地域医療を守るための早急な医療関係者の育成・確保対策について

- ① 本年 3 月をもち、浜田准看護学校が廃校になる。まさに看護人材不足に拍車をかけることになるが、医師会との協力による新たな戦略とはどのようなものか概要を伺う。
- ② 施政方針でも触れられているが、民間医療機関の閉院が続いている。たしかに浜田市・江津市の補完的医療体制の構築は緊急の課題と捉えている。ただそれ以外に、大幅予算化を伴う「開業医誘致」事業に乗り出す必要があるのではないか、市長の見解を伺う。

発言No. 19

受付No. 7

令和8年2月12日  
10時3分 受付

## 一般質問発言通告書

議席番号 6番

氏名 戸津川 美二

答弁を求める者  
(○をつける)

市長 教育長 監査委員 選挙管理委員会委員長  
農業委員会会長 固定資産評価審査委員会委員長 公平委員会委員長

### 発言項目及び要旨

#### 1 若者支援ファンド事業について

##### (1) 令和7年度の実績について

- ① 11事業の内、特に実績のあった事業について伺う。
- ② 年度当初、想定していたとおりに実績が上がらなかった事業について伺う。
- ③ その要因として、どこに課題があったのか伺う。

##### (2) 令和8年度の事業計画について

- ① 令和7年度の実績や課題に対して、見直しを行った事業について伺う。
- ② 若者定住促進となるよう、どのように検討したのか伺う。

#### 2 地域おこし協力隊について

##### (1) これまでの成果について

- ① 現在、委嘱し活動していただいている業務内容について伺う。
- ② これまでに業務を行っていただいているが、どのような課題があったのか伺う。
- ③ この政策について、国の動向や将来見通しをどのように考えているのか認識を伺う。

#### 3 浜田港について

##### (1) 利用状況について

- ① 今年度の利用状況について伺う。
- ② 令和8年度の利用見通しについて伺う。
- ③ 定期便の複数化の見込みについて伺う。

(2) 岸壁・防波堤の整備状況について

- ① 現在進められている整備状況について伺う。
- ② 将来計画の整備見通しについて伺う。

4 小中学校の児童・生徒数及び施設の状況について

(1) 石見・松原・三階小学校の児童数及び校舎建築年について

- ① 各3校の現在の児童数について伺う。
- ② 各3校の6年後の児童数について伺う。
- ③ 各3校の建築年について伺う。

(2) 第一・第二中学校の生徒数及び校舎建築年について

- ① 各3校の現在の生徒数について伺う。
- ② 各3校の6年後の生徒数について伺う。
- ③ 各3校の建築年について伺う。

(3) 小中学校の統廃合について

- ① 小学校統廃合の考え方について伺う。
- ② 中学校統廃合の考え方について伺う。

## 一 般 質 問 発 言 通 告 書

議席番号 5 番 氏名 花田 香

答弁を求める者

(○をつける)

市長 教育長 監査委員 選挙管理委員会委員長  
農業委員会会長 固定資産評価審査委員会委員長 公平委員会委員長

発言項目及び要旨

### 1 幼児教育センターについて

少子化の進行や家庭環境の多様化により、幼児期の教育・保育の質の確保はこれまで以上に重要な課題となっている。

その中でも、幼児教育センターは単なる研修機関ではなく、保育所・認定こども園・幼稚園を横断的につなぎ、現場支援や質の向上を担う中核的役割を果たすべき存在である。

そこで、幼児教育センターの役割と機能、成果と課題、そして今後どのように本市の幼児教育の質向上に寄与していくのかについて、伺う。

#### (1) 浜田市の保育・幼児教育の質の向上支援について

①役割の一つとして、それぞれの施設へ訪問して園内研修を行うことで、日々の保育・教育実践の改善を支援する役割があるが、訪問の現状について伺う。

②園内研修がどのように行われているかを伺う。

#### (2) 研修の企画・実施について

①保育・教育に携わる職員向けにキャリア別研修や合同研修を開催し、最新の知識や技術を共有する役割について、どのような研修を開催されているか伺う。

#### (3) 関係機関との連携コーディネートについて

①保育所・認定こども園・幼稚園の要請に応じて、保健・福祉・教育など専門機関とつなぐサポートを行い、子どもへの総合的支援を図る役割について、サポートの内容について伺う。

(4) 幼児教育施設同士や小学校との連携促進について

- ①幼児期から小学校への移行をスムーズにするため、幼小連携（幼稚園・保育園と小学校のつながり）について幼児教育センターが担っている役割について伺う。

2 幼稚園・保育園・こども園に対する補助金について

幼児教育・保育は、「福祉」でも「サービス」でもなく、子どもの権利保障そのものである。

浜田市が支出している幼稚園・保育園・認定こども園への補助金が、子どもの最善の利益にどう結びついているのか、単なる運営補填ではなく質の向上や環境改善にどのように資しているのか、その整理と検証の在り方について確認をする。

(1) 市からの幼稚園・保育園・こども園に対する補助金について

- ①どのような補助金が出ているのか伺う。
- ②補助金の使途や保育・教育の成果を伺う。
- ③浜田市はその成果についてはどのように把握、認識しているのか伺う。
- ④成果の報告や共有の仕組みはあるのか伺う。

3 子どもの文化的及び芸術的体験について

子どもにとって文化や芸術は、単なる鑑賞ではなく、自己肯定感・創造力・他者理解を育てる「生きる力」そのものである。

とりわけ人口減少が進む浜田市においては、経済的格差や地域差に左右されない体験機会の保障こそが、子どもの権利保障の実践だと考える。

そこで、文化的・芸術的体験の「機会の保障」と「制度化」について、次のとおり確認する。

(1) 子どもの文化的及び芸術的体験の現状について

- ①子どもの権利条約の第31条に、児童は文化的及び芸術的な生活に十分に参加する権利があると謳われている。浜田市において、子どもが文化的及び芸術的な生活に参加する機会をどの程度持っているのか、現状を伺う。
- ②現状を踏まえた課題について伺う。
- ③浜田市が考える将来像について伺う。

発言No. 21

受付No. 3

令和 8年 2月9日

10時25分 受付

## 一般質問発言通告書

議席番号 12番

氏名 川上 幾雄

答弁を求める者

(○をつける)

市長  教育長  監査委員  選挙管理委員会委員長

農業委員会会長  固定資産評価審査委員会委員長  公平委員会委員長

発言項目及び要旨

### 1 浜田市の建設業について

- (1) 産業政策における建設業について
  - ① 産業政策における建設業の位置付けを問う。
  - ② 建設業に対する方針を問う。
- (2) 建設業への支援策について
  - ① 人材不足・技能継承への支援策を問う。
- (3) 公共工事の平準化について
  - ① 平準化への取組について問う。
- (4) 地元企業の受注機会について
  - ① 大型事業の増える中での地元還元の仕組みを問う。
- (5) 建設業の経営環境について
  - ① 物価高騰・資材高騰への支援策を問う。
  - ② 市独自の対応策について問う。
- (6) その他について
  - ① 建設業の基幹産業としての認識について問う。